日本繊維新聞　2007年6月12日掲載

大正紡 新原糸は手機で魅せる
JCで「夢工房」
33社のOG商品を展示

JC（ジャパン・クリエーション）08春夏で大正紡は「夢工房」と銘打ち、日本の匠を通じ現在・近未来のファッション・ビジネスのありようをかいま見せた。5大陸の特選コットンを主軸にオーガニック、獣毛、そして合繊原料も混用、環境に配慮しつつ人にも優しい織り編み、さらにメンズ・レディスのウエア、タオルなどパイル製品、ベビーウエアなどでジャパン・テクノロジーの果実を紹介した。協賛出展は33社を数えた。

体験コーナーには靴下編み機、手機（てはた）、綛（かせ）機など配し、さながらテキスタイル・カルチャー・クラブの風情。ところが、試織のため用意された糸は大正紡新提案の44種のオリジナル素材。

協賛出展の高澤織物（長野市）が木製の手機を据えた。製織実演の女性は多摩美術大学・生産デザイン学科・テキスタイルデザイン専攻生で大正紡提案糸の装てんでシャトル（杼＝ひ）を操作中（写真❶）だった。

「ショール、マフラーなど手機で織ってない」と高澤史納氏。だが、にわか織り子にとってはその進路に影響ありそうな貴重な体験だったはず。

美大生が手機で実演

大正紡は2年前に開発部を設け、新提案糸は有機綿・獣毛や合繊混用から紅殻（べんがら）彩色、紙ループ糸に及ぶ。

これら糸によるサンプル生地の中、たて糸にインド産上質綿「スビン」80双糸、よこ糸はコットンわたを濃・淡ピンクに染め分けブレンドしてから紡績し、ピンクに染めた紙ループ糸も交撚した「紙ループ糸ピンク」7・5番手の見本（写真❷）に目がいった。

環境に配慮し、安全に土に戻るアース・カラーの彩土（はに）染め製品を流通させているが、今回展では酸化鉄による紅殻「古色の美」シリーズも追加。例えば、コットンワタを顔料染めし、糸の濃淡は生成りワタと混綿し表情も変える。

紙ループ撚糸の見本

「日本匠」糸銘柄のうち、「古色の美」はすべてオーガニックのコーマ掛け上質糸で色彩は黒から茜（あかね）まで15品番。紅殻質量は5―10％。

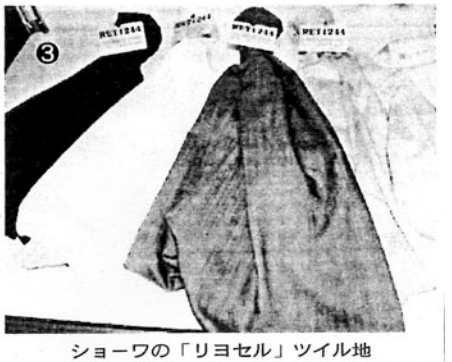
産ペニーシルク、インド産「スビンゴールド」に外モンゴルの黒カシミヤや内モンゴル赤峰のホワイトカシミヤの混用糸に加え、「マシュマロ・レッド」「マシュマロ・グレー」「マシュマロ・リアルブラック」「マシュマロ・ホワイト・パートⅡ」もお目見えした。

「夢工房」協賛出展社見本から、ショーワの10オンス・エミソフィア・ツイル（写真❸）の原糸は米国産「スーピマ」オーガニックとレンチング繊維、エジプト産「ギザ」とタッサー・シルク、またはカシミヤの混用。

別途、現在「マシュマロ」銘で流通させる中国「リヨセル」の混用。

吉河織物のハンガーには自然有色綿「エルパソOG&コヨーテ」のツイルやデニム、かつピュアッド・インディブ染めも。

タオル類では、内野が「TOUCH」、新藤が「天衣無縫」。衣料では樽井繊維工業が絡み織やワッフル・サッカーのローブやガウン。45rpmはポディーで「スビンゴールド」使いの濃紺キャミソール＋パンツ。プリント・シャツ＋パンツはともに「ジンバブエ」手摘み綿と「スビンゴールド」を使用。


ショーワの「リヨセル」ツイル地

向かい側ポディーに、ジムは襟布帛ストライプのカノコポロに加え、奥まった壁面に環境メッセージTシャツを展示。原料はそれぞれ「アルティメイト・ピマ」と「OGプラザ」。いま、百貨店、ジーンズ・カジュアル・ショップの店頭を飾る。

ジムはJC展と同時期に07年秋冬対象の展示会を開催済みで、概要を別項で紹介する。